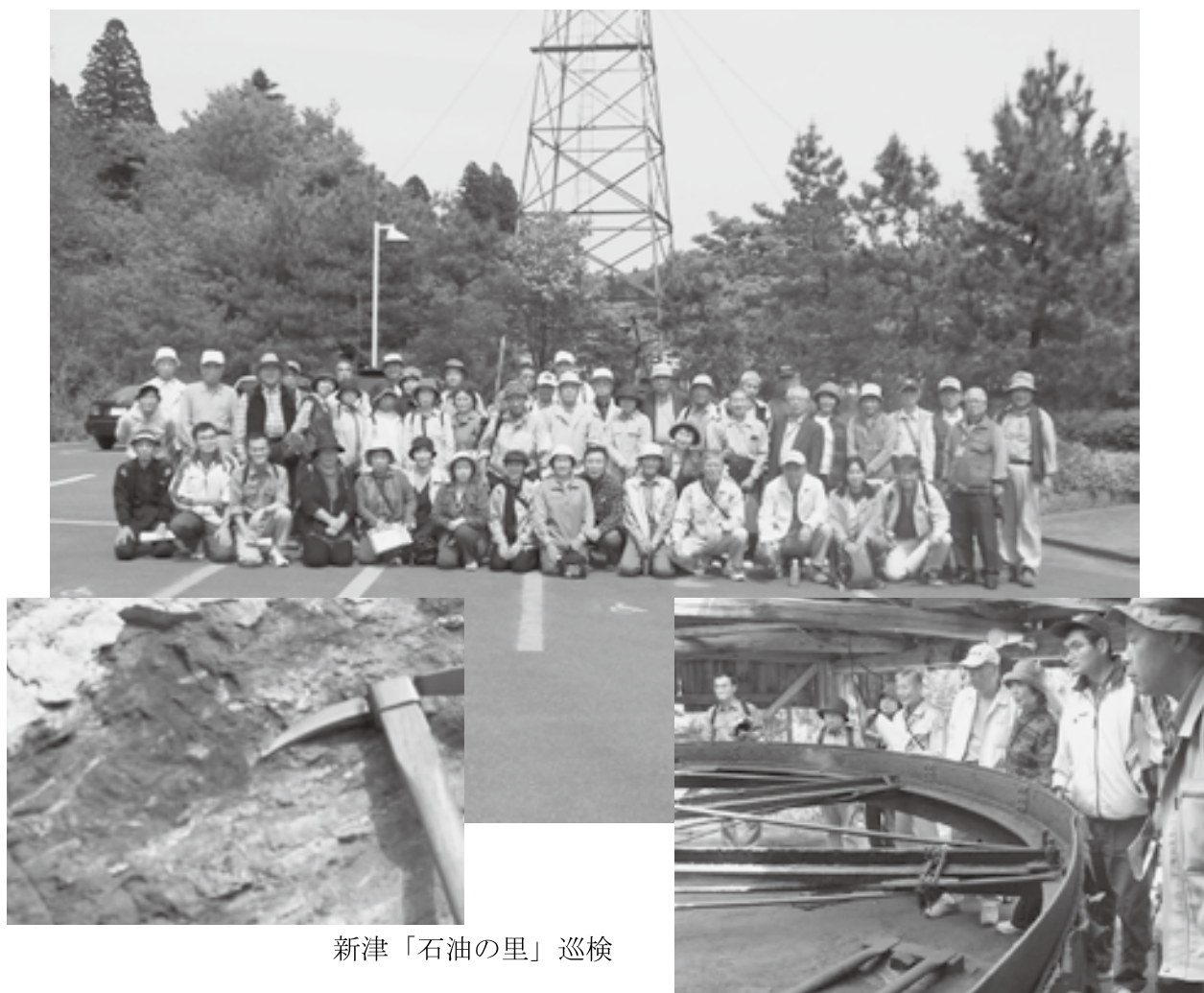


大地から学ぶ越路の

おいたち



新津「石油の里」巡検

【主な内容】

- ・「語りつぐ 10.23」の編集にかかわって
- ・「語りつぐ 10.23」－ふるさとの大地と中越地震－ アンケートから（1）
- ・「新津石油の里」巡検報告
- ・平成 19 年度総会資料
 - 平成 18 年度活動報告・平成 19 年度活動計画案
 - 平成 18 年度決算報告・平成 19 年度予算案

「語りつぐ 10.23」の編集にかかわって

編集委員会 飯川 健勝

1. 地震体験を記録に残そう

罹災の混乱から少し落ち着きを取り戻した 2006 年 5 月、「冷静な目で中越地震を振り返ってみよう」という機運が役員会の中にも見えてきました。いわゆる「中越地震体験集」の発行に向けた胎動です。日本の災害史に残る罹災体験を記録に残そうという事業の呼びかけは、大地の会として当然の成り行きと言っても良いことでしょう。

手回しよくすでに原稿依頼が進んでいた部分もありましたが、その頃になると、新潟日報社をはじめ地域新聞社の写真集に加え、「帰ろう山古志へ」（新潟日報事業社）ほか学校・団体等からの出版物が続々と店頭に並び始めていました。

2. 本を作るといふこと

良くても悪くても、印刷された本は、「どこかで 100 年は生き残っている」ことを念頭に置かなければなりません。私は編集委員長を引き受けるにあたって、ありきたりのものではなく、大地の会ならではの、独創的な章立てでなければならない、と考えました。

また 2005 年 8 月には「中越地震調査団」（地団研）が「専報 54」として被害と地盤の関係について報告書（2005）を出版し、中越地域にはすでに 2000 冊以上が出回っていましたが、その解説的な平易な出版物の必要性も感じていました。あわせてこの出版は、大地の会の年来の諸活動の中のひとつであることも読者には理解していただきたいと考えました。

財政面は、当初特別会計を視野に入れておりましたが、幸い新潟県中越大震災復興基金からの支援を得る事ができました。

3. 当初の編集方針

編集委員会はみんな経験の浅い素人集団です。間違い・取り違いは当然起こりうることであり、恥ずかしいことではありません。委員会の発足にあたり、私は次の項目を提案し承認されました。

- ① 読者対象は、大地の会とその周辺の方々とする。
- ② 店頭販売はせず頒価とする。

- ③ 構成は、第 1 部：体験集（70 人前後） 第 2 部：「専報 54」の解説版 第 3 部：大地の会の活動とおいたち とする。

- ④ 本の様式は、B5 版 横書き 文字は 11 ポイント 250 ページ前後とする。

- ⑤ 発行部数は 500 部とする。

第 1 部はともかく、第 2 部は基本的に専報 54 の引用・複製であることから、当初は出版を大げさにはしないことを前提に考えておりました。しかし執筆された罹災者の方々の、その体験を伝えないではいられない熱い思いに圧倒されることとなりました。

4. 方針変更と内容のより充実を図って

急遽、執筆者は罹災地を中心にさらに広域にわたるよう、新たにお問い合わせの方々を発掘し、あわせて罹災状況を客観的・統一的に把握するためアンケートのお願いをしました。前者は 89 名、後者は 83 名の予想を超える方々が応じて下さいました。そして体験談とともに貴重な分析結果が得られました。また「震災復興基金」の趣旨に沿って頒布対象も当初予定のほか中越地震調査団・中越地域の各学校・行政・図書館・公民館等にも視野が広がって行きました。

こうなると配布対象は不特定多数となり、地質コンサルなどプロの方々も視野に入れなければなりません。すなわち第 2 部は「専報 54」の引用・複製のみでは済まされなくなり、項目の新設や全面書き換えが必要になりました。内容の量的増大もともなって B5 版から A4 版への変更も余儀なくされ、当初計画から 4 ヶ月遅れの 2007 年 2 月漸く発行の運びとなりました。

5. 出版祝賀会と 2 刷の増刷

多くの方々のご尽力・ご協力で自主サークルでは類例のないタイプの大著となりました。1 ヶ月余りで 1000 部の発行は底をつき、800 部の 2 刷り増刷となりました。配布対象・頒価等素人集団故の今後への課題もありましたが、80 余名が出席された出版祝賀会の喜びやこの編集・出版を通してともに身に付けた経験はきっと次の発展につながることでしょう。

「語りつぐ 10.23」ーふるさとの大地と中越地震ー アンケートから（1）

中越地震体験集はたくさんの方々からお読みいただきました。事務局に寄せられたアンケートの一部をお知らせします。皆様からのご意見を拝見し、発刊してよかったと改めて感じさせられます。なお、設問は以下の内容でお願いしました。

- ①本書のどの内容に興味をもたれましたか。
- ②今後の防災に役立つと思われましたか。
- ③その他 ご意見・ご感想など。

アンケートをまとめると、①については、第1部と第2部に関心を寄せられた方が多かったようです。第1部の体験記は、体験者の生の声が綴られていて迫力があつた、多くの教訓が含まれていて大変参考になったなどのご意見を頂きました。第2部については、地質の専門家の解説は大変参考になったなどのご意見をいただきました。

②については、多くの方から、災害時の行動や日ごろの備えなどで役に立つというご意見をいただきました。

③については、体験記や大地の会に対する温かい励ましのお言葉をたくさんいただきました。

【頂いたアンケートから】

川口町 Mさん （体験記執筆者）

①語りつがねばならない震災を広く生の声をまとめて下さいましたこの誌を大切にしたいと思います。まだ、読み足りませんが復興される各地を見て回りたいと思います。

長岡市 Hさん （体験記執筆者）

③栗山沢、半蔵金、中野俣と本当に山間部地帯に対する行政の対応の遅れは、読ませていただいて痛いほどによくわかります。これは市の中心部の被害が少なく、声を大にしても通じなかった思いが多いように感じました。行政の遅れを痛切に感じました。

仙台市 Nさん

③第2部と第3部は結構な報告に仕上がっています。地盤の崩壊ー変形について、もっと具体的であればよかった。

新津石油の里友の会 島津光夫さん

③300ページに及ぶ大冊で、よくまとめられたものと感心致しております。生々しい体験記、アンケートの集計、地学的な解説など貴重で興味のある内容で今後の防災にも役立つ立派な報告集と思います。

群馬県下仁田自然学校 小林忠夫さん

③刊行おめでとうございます。すばらしい作品ですね。よくこれだけのものをまとめ上げたものだ、とみなさんの努力に感心しました。懐かしい人々がたくさん登場し、30年前の昔を思い出しました。しかし、それが地震を境にすっかり変わってきたこともわかりました。そういう意味でも、これは貴重な記録ですね。3部構成もいいですね。

やはり、第1部が圧巻です。89名の証言はすごい。なかから元気で頑張っている昔の友人を沢山見つけました。でもみんな歳をとりました。

第1部があつて、第2・3部が活きてきますね。しかし、逆にこちらからみることで、第1部の「生きた証言」の意味がわかってくる部分もあると感じました。すばらしい構成だと思います。そしてすべてが貴重な記録です。

この本は、下仁田自然学校の蔵書として、有効に利用したいと思います。越路の大地の会のますますの発展を期待しています。これからも、「自然学校」交流会で、おつきあいができれば幸いです。

「語りつぐ 10.23—ふるさとの大地と中越地震—」出版記念祝賀会

まだ里にも雪が残る平成 19 年 3 月 10 日(土)午後 2 時から越路町商工会館にて出版祝賀会が行われました。

執筆された方々をはじめご協力支援をいただきました方々から長岡、三条、川口和南津、田麦山、小国法末と各地より 80 名の参加を頂きました。



中越復興市民会議：稲垣事務局長、大野長岡市復興管理官、深井長岡市越路支所長、体験を執筆された方々から出版された「語りつぐ 10.23」の冊子を手に祝辞と中越地震を振り返りながら、執筆にまつわるお話、その後の各地域での復興状況など報告頂きました。



執筆者の方々が初めて直接顔を合わせて交流を深める唯一のよい機会となりました。

また、ご自身の体験の掲載された体験集を手に皆さん感慨深い思いを抱かれ、追加で何冊も購入頂きました。



ご出席された方々からのお言葉の中で、心に残りましたのは、田麦山や小国法末の方々から「復興した村を是非見に来てください！！」との心強い言葉です。会場からは大きな拍手がわきおこりました。中越地震からはや 3 年がたとうとしておりますが、遅まきながらも一冊の記録として出版できました喜びと復興に向けての新たな決意を大勢の人々と分かち合うことが出来たこと、また、ご支援頂きました方々に心より感謝いたします。



新津「石油の里」巡検報告

例年の春巡検は半日の日程でしたが、今回は新津「石油の里」まで1日の日程で行いました。

5月12日は好天に恵まれたことと、石油の世界館友の会のご好意で小野沢副会長をはじめ大勢の先生方からご案内・詳しく解説していただいたことすばらしい巡検となりました。

参加者は定員いっぱいの45名、マイクロバス2台での巡検でした。新津に向かうバスの中では、本会顧問の山崎興輔先生と渡辺文雄先生から石油の里の見どころや途中の地形・地質解説をしていただき充実したものでした。

石油の里は、石油採掘に関わる多くの施設が残されていて魅力がいっぱいでした。時間の関係で全部を見学することができなかったのが残念です。

午前は2班に分かれて「石油の世界館」見学と世界館近傍の「石油の遺産めぐり」。午後は参加者各自が選んだ以下のコースを見学しました。

Aコース：「石油がしみでる地層」

Bコース：「断層と大昔の海底火山探検」

Cコース：「中野邸美術館と中野邸庭園見学」

各コースを以下の石油の世界館友の会の先生方からご案内いただきました。

小野沢正一氏（副会長）、渡辺其久男氏（副会長）、島津光男氏（顧問）、大野隆一郎氏（幹事）、坂井陽一氏（幹事）、庭田盛範氏（幹事）、中島哲宏氏（幹事：事務局）

①石油の世界館

石油の世界館は、地球と石油の誕生から石油採掘の歴史や石油開発・精製、石油の利用、そして地元の金津油田と掘削に関わった人々など石油に関することと人のかかわりを紹介する展示館です。小野沢先生の名調子の解説で理解が深まりました。



写真2 石油の世界館見学風景



写真3 上総堀りの模型



写真1 ご案内頂いた友の会の先生方



写真4 金津油田の昭和初期の様子を解説

②石油の遺産めぐり

ロマンの遊歩道ルート

石油の世界館周辺と南の小高い山には多くの掘削井戸をはじめとする石油関連施設が数多く保存され遊歩道が整備されています。

■石油井戸（綱式機械掘り・上総掘り）

遊歩道沿いには、多くの石油井戸がありそれぞれに番号がつけられ保存されています（C：機械掘り、K：上総掘り）。遊歩道沿いには12坑あり、明治37年（C-7）深さ229mから昭和13年（k-217）深さ94mとのことでした。



写真5 石油の掘削井

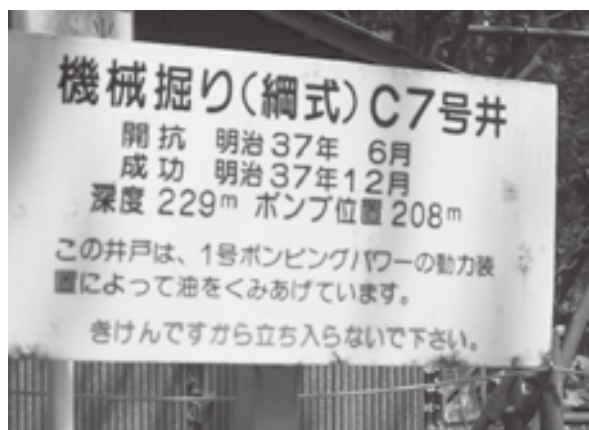


写真6 掘削井に設置されている表示板

■ポンピングパワーと継転機

ポンピングパワーは各石油井戸のポンプにつながれた引張線に往復運動を伝える動力装置で、この施設では6台の継転機を用い、同時に25坑の井戸に動力を伝えたとのことでした。

平成8年まで使用され、現在は停止したそのままの状態で置かれています。

案内していただいた先生は「貴重な施設であ

り産業遺産。このままで朽ちていく。何とか動かせる状態にしたいと思っているが、多額の資金が必要であり困難な状態」とのことでした。



写真7 ポンピングパワー(1)



写真8 ポンピングパワー(2)



写真9 引張線から複数の井戸に分ける継転機

■石油を含む地層（オイルサンド）

遊歩道脇の崖では石油を含む地層が観察できます。約500万年前に海で堆積した金津層（砂岩と泥岩の互層）と命名された地層で、この砂岩は石油を含み「オイルサンド」と呼ばれています。この石油を含む金津層が新津には広く分布しているとのことでした。

■集油・原油処理施設

新津の原油は比重の大きな重質油で多くの水を含んでいるために加熱・水切り作業が必要で、このための施設(集油所、計量タンク、加熱炉等)が山すその道路脇に残されています。

すでに使われていないものですが、レンガ造りのこれらの施設は、日本の近代化を支えた産業遺産として貴重なものと感じました。

③石油がしみでる地層

一の沢ルート

石油の世界館から南へさかのぼる一の沢の林道沿いには石油を含む金津層がよく露出し、石油が地層からしみ出る様子や金津層の特徴がよく観察できます。

■石油がしみ出る地層

林道の崖では北に傾斜した地層の一部(砂岩層)が黒ずんで、削って見ると油がしみ出てきます。新津丘陵でしか見られない貴重な崖と聞きました。



写真 10 中央の黒い部分に石油が含まれる

■金津層の堆積構造から堆積環境を考える

一の沢をさかのぼると次の露頭が現れてきます。案内いただいた坂井先生、中島先生から観察のポイントを解説していただき堆積環境について学習しました。

この露頭では、A層：偽れき(下の泥岩が固まらない状態で砂層が流れ込んだために剥ぎ取られて砂岩層に取り込まれたもの)を含む粗粒砂岩。B層：下部が中粒砂で上部が細粒砂の砂岩層。C層：塊状の泥岩層を1つのユニットとしてこれが何層も確認できました。これが堆

積した環境を想像して……とのことでしたが想像力に乏しい頭脳ではなかなか理解にたづまるものでした。



写真 11 露頭の観察

層理、葉理、偽れき、化石など地層の基礎的な学習に最適なコースとのことです。当日は新潟大学理学部・教育学部の学生が露頭のスケッチやルートマップの作成を行っていました。皆さん真剣で未来の地質学者がここから育っていくのだと思いました。



写真 12 砂岩泥岩の互層

案内いただいた石油の世界館友の会の方は、この石油の里を「世界遺産」という夢を語られました。

貴重な石油産業文化遺産が残されているこの石油の里は、この遺産を大切に保存することによって多くのことを学ぶことができ、また、新津丘陵の豊かな自然に心を癒してくれる貴重な空間でもあります。

また訪ねてみたいと思いました。

断層と大昔の海底火山探検

・・・・・・白玉の滝をめざして

昼食休みもそこそこに、午後の巡検が始まりました。案内人は友の会幹事をつとめる大野隆一郎さんと庭田盛範さんのお二人です。

Aコースに比べて距離も長く、標高差もあることからやや健脚向きと言われていましたが、自称健脚(?)が30人ほど参加しました。

昼食時に、Bコースは時間節約のため途中までバスを利用することに変更、との連絡があつてそれで「健脚」が急増したというのは影の声です。でも結局バスで行ったのは舗装道路の数百メートルだけで、コースの大半は歩きとなりましたので、参加者全員は健脚だったことが証明されたことになりそうです。

閑話休題。金津の里を南に抜け、山あいの水田地帯を道なりにしばらく行くと、最初の観察地点です。ここではおもに泥岩層が観察でき、厚さ数10cmの砂岩層が何枚かはさまっていました。石油を含む地層である金津層の一部が見えているそうです。少し苔むした露頭の表面を削って新鮮な面を出してみると(削ってくれたのは案内者と大地の会顧問ですが)、砂岩層がとぎれとぎれになっているのがわかります。小さな断層がいくつもあつて、砂岩層が“ずたずたに”切られているようでした。

さらに林道を進むと谷がせばまり、木立も薄暗くなってひんやりしてきます。いよいよ白玉の滝かと思われる頃、駐車場です。車が何台か止まっているのは、季節もよく天候も申し分な



写真1 最初の観察地点で露頭の見方の説明を聞く

しで、新津や新潟あたりからハイキングにきた人たちでしょうか。すぐ奥に思ったよりかわいらしい雌滝が見えます。案内者からこの滝をつくっている黒

っぽい硬い岩の説明がありました。

先ほどの地層は谷の入り口側に傾斜していたので、ここで見る岩はそれよりも古

いことになるそうです。滝だけでなく、このあたり一帯は古い時代の海底火山から流れ出た溶岩が固まってできたもので、岩石名は玄武岩とのこと。すぐ足もとに転がっている転石も同じ岩質なので、小さな石ころをお土産に持ち帰る人もいました。

林道を少し戻って急な山道をのぼり、上の林道に出ると3つめの観察地点です。林道をつくったときの切り割りなのでしょう。高さは2～3mですが、延々と数十mにわたって露頭が続きます。上の方は白っぽいやわらかい層で、下の方はごつごつした硬い岩が大小さまざまな複雑な形の塊になっています。ここでも案内者が丁寧に解説をしてくれました。海底に噴出した玄武岩の溶岩が、海水で急に冷やされ粉々に砕けたまま固まったあと、その上に火山灰や泥が積もってこのようになったということです。玄武岩の割れ目やすき間に泥や火山灰が入り込んでいるところもあるようでした。

さらに林道を進んで最後は雄滝の上に出ました。硬い岩が絶壁をつくっています。岩はデイサイトという岩石だそうで、割ってみると小さなガラス片のような石英が見つかります。また割った面に小さな孔があいていることもあつて、この孔に石油がしみ込んでいることもあるそうです。

雄滝は雌滝と違ってほぼ垂直な10m以上の落差を持つ大きな滝ということでしたが、滝の上から身を乗り出すのは危険なので、その景観を堪能することはできませんでした。

帰りは、山菜を採る人、地元の人と話し込む人、のんびり歩きを楽しむ人と、各人が思い思いのスタイルで、どこか懐かしい感じのする田舎道を抜け、金津の山里をあとにしました。



写真2 白玉の滝 雌滝を鑑賞し、お土産の小石を拾う

新津「石油の里」巡検の参加者の主な感想

巡検参加の大勢の方々から感想が寄せられました。概ね満足との感想で、有意義な巡検であったと考えています。ありがとうございます。

- ・友の会の皆様方の詳しい説明と現場を観察することができました。時間が足りないことが残念でした。石油の含まれている岩や溶岩を見ることができてよかった。また、海底火山の様子等が目で、地上で見られることがすばらしい。
- ・好天に恵まれ石油の里の見学はすばらしい観察会であった。解説の方の豊富な知識による懇切丁寧な説明でより理解が深まった気がします。
- ・午前のコースはいきなりの山登りで疲れましたが、実際に回ってみて、採掘の仕組みや苦労が実感できました。石油の世界館の説明では、国策として石油の需要があったことや中野貫一の苦労など丁寧な説明で納得出来ました。また、午後は案内書と看板と現地での解説そして実際の石油のしみだしている土を採取など、金津層のつもったときの環境に思いをはせました。昼に頂いたイチジクやお菓子がおいしかったので土産に買いました。売店もありとてもいいですね。
- ・今まで、石油の出来るまでの歴史は大体知っていたが、我国の明治時代の採取の苦労は想像以上のもので、中野さんの一生は立派だなと痛感しました。越路の今の天然ガスも日本で誇れるものとおもいます。
- ・説明の皆様が本当に一生懸命に説明して下さいました。油のしみ出す現場（岩石）も見たいと思いました。越路原の油田についてもこのようにしみ出す油の層があるのかと思いを巡らせました。今後もこのような研究集会があったら出席したい。
- ・もみじ公園を廻って、大きさに驚くばかり、昔の人の知恵と尽力に感無量の思いで見学させて頂きました。先生方のガイド聞き惚れ

ました。

- ・昔にしては立派な施設と思います。越路も天然ガスも今は日本一といわれておりますが、50年位には使い果たし、やがては今日見学させて頂いた様な状況になると思います。今日は本当に参考になりました。
- ・午前（遺産巡り・世界館）現地及び説明はすばらしい。午後、滝にはがっかりしましたが、断層の説明には感動しました。
- ・新津の石油を身近に感じる良い機会でした。石油の知識が増えました。中野邸は2度目ですが改めて中野家の財力の凄さに感心させられた。非常に有意義な1日でした。
- ・石油の遺産巡りでは、掘削井戸やポンピングパワー、製油施設などが保存され、貴重な産業遺産となっている。一之沢ルートは身近に地層観察が出来るところで、新潟大学理学部の学生がルートマップ作成実習を行っていた。石油を含む地層の露頭は石油の里のシンボルともなり財産と思う。
- ・このような設備が当時のままほぼ完全に残っているのに驚きました。午後からも当地の地層のお話に感激しました。今後またゆっくり歩きたいと思います。
- ・友の会の先生方の説明が非常にわかり易く私にも理解できました。長岡の地震で断層に興味があり、有意義な一日でした。私の住む所は旧町名で下草津。昔、油が出たということで、一段と親しみを感じた一日でした。ありがとうございました。
- ・立派な施設や歴史のあとをみて、今度は観光でゆっくり来てみたいと思いました。最近まで動いていた施設が一部でも動けたらと思います。地層というものを改めて見たいと思います。
- ・とても楽しく、また、勉強になりました。大地の会もこのようなガイドができるよう会員ももっと努力する必要があるのでは？と思いました。

総会資料

平成 18 年度 活動報告

- 1 総会・記念講演 日 時 / 場所 平成 18 年 6 月 23 日(金) 19:00～21:00 越路総合福祉センター
講師 元新潟県立巻高等学校 山崎 興輔氏
演題 「中越地震で発生した建物の被害と地盤」—建物の被害分布から見たいくつかの疑問・長岡地域を例にして—

2 会報「おいたち」の発行

47 号 平成 18 年 7 月 24 日発行

春巡検報告、総会報告、東山油田保存会報告 他

48 号 平成 18 年 9 月 1 日発行

中越地震と大地の会の活動、18 年度地学講座案内 他

49・50 合併号 平成 19 年 3 月 10 日発行

講座 18 年度講座報告、中越復興交流会議参加報告、語りつぐ 10.23 発刊案内 他

3 地学講座

統一テーマ「中越地震から学ぶ我が家の地盤補強と耐震対策」

第1回 平成 18 年 9 月 26 日(火)「宅地の地震被害と地盤補強工法」

講師 応用地質(株) 新潟支店 技術士 小野寺 功 氏

オムニ技研(株) 経営企画室 室長 高田 晋 氏

第2回 平成 18 年 10 月 3 日(火)「木造住宅の耐震補強と復旧事例の紹介」

—補強方法と恒久復旧—

講師 内藤建築構造事務所所長 一級建築士 内藤 幹雄 氏

第3回 平成 18 年 10 月 14 日(土)野外巡検「地盤改良と中越地震の復旧工事現場」

講師 オムニ技研(株) 経営企画室 室長 高田 晋 氏

新潟第四紀グループ

第4回 平成 18 年 10 月 24 日(火)「中越地震による建物被害と地盤との関係」

講師 新潟県立小千谷高等学校 教諭 吉越 正勝 氏

4 諸活動

○春の巡検 平成 18 年 5 月 12 日(日)

新潟中越地震被災地を中心に巡検 -西谷・片貝・妙見・山本山-

○東山油田巡見に参加 平成 18 年 5 月 20 日(土)

浦瀬山鉱場、桂山鉱場見学

○石油の世界館友の会交流 平成 18 年 11 月 11 日(土) (越路資料館)

○中越地震体験集「語りつぐ・10.23」-ふるさとの大地と中越地震- 発刊

● 初 版 平成19年2月25日 1,000 部発行

● (第2版 平成19年5月31日 800 部発行)

● 発刊記念祝賀会 平成 19 年 3 月 10 日(土) 越路商工会館

○成出露頭の管理 草刈り 春秋 2 回

5 役員会他

○毎月 1 回

○体験集編集会議 ……随時

総会資料

平成19年度 活動計画 (案)

1. 総会・記念講演 日時／場所 平成19年8月10日(金) 19:00～21:00 越路総合福祉センター
講師 関越地域地質研究所 代表
群馬大学・前橋工科大学非常勤講師 理学博士 大塚 富男 氏
演題 「信濃川・魚野川合流部周辺の新しい時代の地表変動」
ー約3万年前の大地の陥没によって生まれた田麦山・武道窪盆地ー
2. 会報「おいたち」の発行 年 4回 を予定
3. 地学講座の開催
■統一テーマ (仮)「川が育む暮らしと自然」
平成16年度は新潟地震40周年であることから「地震」テーマに、その年10月の中越地震発生から17年度、18年度と地震と防災についてのテーマで実施してきました。
19年度は、環境問題が注目される中で、越路の大地に関わる「川と人々の暮らしや自然」をテーマに開催を予定しています。
■第1回 9月18日(火) 長岡技術科学大学名誉教授 早川典生氏
■第2回 10月 2日(火) (株)エコロジーサイエンス主査研究員 中野雅子氏
■第3回 10月14日(日) 巡検 : 大河津分水可動堰工事現場・大河津資料館 他
■第4回 10月30日(火) 前大河津資料館館長:近代地域史研究家 五百川清氏
4. 諸活動
○新潟県中越沖地震緊急調査報告 10月23日(火)を予定
○春の巡検 平成19年5月7日(日)
新津「石油の里」油のしみだす地層と石油の文化遺産をたずねて
○他の地学団体への参加・交流
糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会、新津石油世界館友の会
東山油田(史跡・産業遺産)保存会、下仁田自然学校 等
○成出露頭管理 草刈り(春:6月17日) 他 秋に1回実施
○岩石カッターによる石材加工体験 : 成出運動広場管理棟
○大地の会 HP の運営
5. 役員会
年 12回 (毎月1回程度:第1火曜日を予定)

平成19年度 新役員 (案)

- 顧問 飯川健勝、小野塚敏則、加藤正明、山崎興輔、吉越正勝、渡辺秀男、渡辺文雄
- 会長 小川幸雄 ■副会長 丸山哲 永井千恵子 ■幹事長 大谷晴男
- 会計 松井直子 ■監事 平沢聡 内山隆
- 役員 安藤正芳、石坂圭介、今井俊夫、遠藤はつ江、遠藤幹彦、金井幸次、金子秀樹、小林和子、山後栄子、長束敏雄、中野雅子、新田康則、鷲山厚、桑原浩志

総会資料

平成18年度 大地の会決算報告

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
会費	286,500	358,500	72,000	一般 88,500 法人 270,000
受講費	50,000	51,500	1,500	春巡検参加費、秋講座受講費
受託料	150,000	150,000	0	長岡市より講座及び成出露頭管理受託
寄付金	0	0	0	
雑収入	60	83	23	預金利子
繰越金	5,540	5,540	0	
合計	492,100	565,623	73,523	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
会議費	10,000	7,379	-2,621	会議会場費等
活動費	325,000	287,161	-37,839	講師謝金、会報、写真現像他
消耗品費	10,000	11,394	1,394	資料用紙、封筒、コピー代他
通信費	35,000	40,790	5,790	会報郵送料他
繰出し金	100,000	100,000	0	大地の会中越地震体験集発刊事業
雑費	1,000	3,895	2,895	
予備費	11,100	3,160	-7,940	
合計	492,100	453,779	-38,321	

(収入) 565,623 円－(支出) 453,779 円＝(次年度繰越金)111,844 円

平成18年度 大地の会マップ会計決算報告

(単位:円)

(1) 収入の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
マップ販売	25,000	64,585	39,585	
雑費	0	106	106	預金利子
繰越金	213,700	213,700	0	
合計	238,700	278,391	39,691	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
繰出し金	200,000	200,000	0	大地の会中越地震体験集発刊事業
雑費	38,700	0	-38,700	
合計	238,700	200,000	-38,700	

(収入) 278,391 円－(支出) 200,000 円＝(次年度繰越金)78,391 円

監査報告

平成18年度における収支決算に関する証拠書類と諸帳簿について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。

平成19年7月11日

監事 内山 隆

平沢 聡

総会資料

平成19年度 大地の会予算(案)

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	予算額	前年度予算	前年比	備考
会費	360,000	286,500	73,500	一般 90,000 法人 270,000
受講費	50,000	50,000	0	
受託料	150,000	150,000	0	長岡市より講座及び成出露頭管理受託
寄付金	1,000	0	1,000	
雑収入	56	60	-4	預金利子
繰越金	111,844	5,540	106,304	
合計	672,900	492,100	180,800	

(2) 支出の部

項目	予算額	前年度予算	前年比	備考
会議費	15,000	10,000	5,000	会議会場費等
活動費	490,000	325,000	165,000	春巡検 50,000 秋講座 200,000 ホームページ運営 50,000 会報 140,000 諸活動 50,000
消耗品費	15,000	10,000	5,000	資料用紙、封筒、コピー代他
通信費	50,000	35,000	15,000	会報郵送料他
繰出し金	0	100,000	-100,000	
雑費	1,000	1,000	0	
予備費	101,900	11,100	90,800	備品購入
合計	672,900	492,100	180,800	

平成19年度 大地の会マップ会計予算(案)

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	予算額	前年度予算	前年比	備考
マップ販売	25,000	25,000	0	
雑費	9	0	9	預金利子
繰越金	78,391	213,700	-135,309	
合計	103,400	238,700	-135,300	

(2) 支出の部

項目	予算額	前年度予算	前年比	備考
繰出し金	0	200,000	-200,000	
雑費	103,400	38,700	64,700	
合計	103,400	238,700	-135,300	

平成18年度 大地の会中越地震体験集会計 中間決算報告

平成19年7月11日現在

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	当初予算額	補正予算額	決算額	増減	備考
繰入金	300,000	300,000	300,000	0	大地の会・マップ会計より
助成金	500,000	1,400,000	1,400,000	0	中越復興市民会議より
寄付金	0	0	3,000	3,000	寄稿者より
祝賀会	0	150,000	153,000	3,000	75名参加
本売り上げ	0	300,000	383,500	83,500	
雑収入	0	0	0	0	
合計	800,000	2,150,000	2,239,500	89,500	

(2) 支出の部

項目	当初予算額	補正予算額	決算額	増減	備考
会議費	30,000	30,000	4,853	-25,147	編集会議
原稿編集費	120,000	60,000	15,348	-44,652	取材時資料代
印刷製本費	600,000	1,700,000	1,400,000	-300,000	第2版印刷費を含む
事務費	20,000	20,000	8,403	-11,597	用紙、インク代
通信費	10,000	100,000	79,800	-20,200	冊子郵送料
祝賀会	0	200,000	178,438	-21,562	
雑費	5,000	5,000	0	-5,000	
予備費	15,000	35,000	0	-35,000	
合計	800,000	2,150,000	1,686,842	-463,158	

(収入) 2,214,500円 - (支出) 1,686,842円 = (現在高) 527,658円

監査報告

平成18年度から現在の収支決算に関する証拠書類と諸帳簿について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。

平成19年 7月 11日

監事 内山 隆 平沢 聡

会員の皆様へ

■大地の会の活動へのご意見。ご要望をお寄せください。

日頃大地の会の地学講座、巡検などの活動への積極的なご参加ありがとうございます。中越地震体験集「語りつぐ 10.23」—ふるさとの大地と中越地震—の出版は他の多くの団体の方々より高い評価を得ており、新潟県では他の地震体験集とともに能登半島地震の被災地に送ると聞いています。体験集の出版は会の存在を認識していただくいい機会となりました。

今後とも大地の会らしい活動を行っていくことを役員一同確認しています。活動内容についてぜひご意見をお寄せください。

■会報「おいたち」への投稿をお願いします。

「おいたち」は大地の会の活動内容に参加できなかった会員への報告や地学・地域づくりに関する情報提供を行うとともに、会員同士の意見交換・情報交換の場としていきたいと思っています。

会員の皆様の投稿をお待ちしています。

賛助会員紹介

帝国石油株式会社国内本部
朝日酒造株式会社
株式会社エコロジーサイエンス
有限会社越路地計
大原技術株式会社
有限会社広川測量社
高橋調査設計事務所
株式会社長測
有限会社中越測量社 順不同

大地の会会報 おいたち 51 号

200 発行

問合せ先 〒949-5493 長岡市浦 715 番地
長岡市教育委員会越路分室
担当 桑原浩志 TEL 0258(92)5910
ksj-kyoiku@city.nagaoka.lg.jp

大地の会代表 小川幸雄 携帯：090-4672-7681
y-ogawa@m2.nct9.ne.jp
<http://www10.plala.or.jp/wai2club/daitchi>